

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Award 2021 表彰式開催

■随想

◇エスワティニ王国旅行記（5）健康

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇PVC Award 2021 表彰式開催

「生活を豊かにする PVC 製品」をテーマとした“PVC Award 2021”の表彰式が 2022 年 1 月 11 日（火）、六甲ビル（東京都中央区新川）で開催されました。準大賞（2 点）、優秀賞（3 点）、特別賞（4 点）、入賞（5 点）に選ばれた受賞者に、PVC Award 2021 実行委員会委員長（塩ビ工業・環境協会 斉藤恭彦会長）より賞状と盾が贈呈されました。今回は新型コロナウイルスの影響のため会場とオンラインのハイブリッド形式で行われました。（[受賞作品一覧](#)）

本事業に後援をいただいている経済産業省製造産業局革新素材室長 森本将史氏より来賓の挨拶をいただきました。「生活を豊かにする PVC 製品」というテーマのもとに、審査基準である市場性、機能性、独創性、並びに利便性や環境配慮など環境・社会貢献に向けた課題にチャレンジする製品を公募して表彰する本事業の趣旨に賛同しており、今回の審査結果からその成果がうかがわれる。地球環境問題やリサイクルなど難しい社会課題に対して、これからも PVC は素材として持っている多様性と可能性を活かして、様々な課題解決に貢献し発展することを期待している」と励ましのメッセージをいただきました。



森本革新素材室長

続いて、審査員を代表して芝浦工業大学デザイン工学科教授橋田規子氏から講評をいただきました。「人々の暮らしを支える製品で、かつ普段見えないところで重要な役割を果たしているものが目立った（フロートケーブル、後付け逆流対策弁、耐火性ビニル管、貯留材、収納式シートなど）。他にもマリンスフロートカバーやリハビリ補助用具など今後の社会問題に対応した製品。その他、防水シューズ、ブロック、ポッチャなどはアクティブな分野で今後の展開が楽しみ。PVC のタフさや多様性を活かして社会への提案力の強さを感じ、今後の展開に期待している。」



橋田教授

今回の審査は、一次選考会と本審査の2段階の審査形式が採用されました。4つの主催団体8名から成る選考委員による一次選考会が行われ、5つの審査基準（テーマ整合性、市場性、機能性、独創性、環境・社会貢献度）に基づいて、応募作品総数95点の中から約20点が本審査用に出選されました。さらに、橋田氏（前出）と日刊工業新聞社論説委員・編集委員山本佳世子氏のお二人の外部専門家によって選ばれた推奨作品を合わせ、合計29点が審査対象となりました。この中から7名の審査員*によって合議制により受賞作品が選ばれました。

*外部専門家（橋田規子氏・山本佳世子氏）、（一社）日本住宅リフォーム産業協会専務理事 押部隆利氏、主催団体から代表4名（塩ビ工業・環境協会 宮島正紀理事、日本ビニル工業会 矢口昭史常任理事、日本ビニール商業連合会 勝山正昭会長、日本プラスチック製品加工組合連合会 河野修一郎副会長）。

準大賞の一つ目は、(株)三ツ星の「水中機器用フロートケーブル」です。代表で授賞された同社技術開発センターの北村嘉弘氏より「開発のきっかけは、水中での機器を用いた作業ではケーブルが水底を引きずって破損する恐れや、浮きをつける手間など作業性に課題があった。その課題解決のため耐久性のある発泡PVCに着目して、水に浮くケーブルを開発した。使用者のニーズに応じて3色（黄、青、黒）のラインナップを用意した。今後は水中工事だけでなく、水回りの社会課題に積極的に取り組んでいきたい」と抱負をコメントされていました。製品は2019年8月より販売されています。



齊藤委員長と(株)三ツ星北村氏

もう一つは、(株)ハイビックスの「リハビリ補助用具 Curaria」です。授賞された同社代表取締役社長高井順子氏より「Curaria は理学療法士の方のアイデアを基に生まれたPVC製のリハビリエアール用具で、空気圧でこわばった筋肉を持続的にストレッチすることで筋緊張を和らげられる。例えば脳血管疾患のある患者で手足に障害のあるケースにおいて活用されている。理学療法士の方々の負荷軽減にも役に立っている」と社会貢献している話を紹介されていました。製品は2020年9月より販売されています。



齊藤委員長と(株)ハイビックス高井氏

優秀賞は、「ランラン RAIN」の(株)丸五（代表として大橋真人氏）、「収納式横型多目的シート YU2」の(株)水上（代表として水上宏樹副社長）、「レンブロックキャンバス」の(有)ワイピーシー（代表取締役吉山務氏）及び(株)照和樹脂（代表取締役大川康夫氏）が各々表彰されました。



優秀賞（左から大橋氏、水上氏、吉山氏、大川氏）



特別賞(左から小林氏、井橋氏、高井氏) 高畠氏



特別賞は、「建物用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管・継手」の(株)クボタケミックス(代表として小林毅博氏)、「後付け逆流対策弁」の前澤化成工業(株)(代表として井橋拓海氏)、「貯留材・アクアパレス」の(株)トーテツ(代表取締役高井征一郎氏)、「マリンフロート防散カバー」の(有)広谷商店(代表取締役高畠伸幸氏 web 授賞)が各々表彰されました。



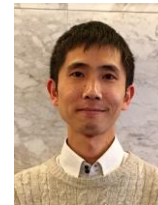
入賞(左から山川氏、宮内氏、宗像氏)



間部氏



植田氏



坂口氏

入賞は、「花巾着」の(株)memori(代表宮内秀明氏)、「縁結び囀(えんむすびます)」の(株)ナショナルマリンプラスチック(代表として宗像学氏)、「バイオマスデスクマット」のアキレス(株)(代表として山川元氏)及び森松産業(株)(代表として間部将大氏 web 授賞)、「ユニボッチャ ロトロ」の(株)三和製作所(代表として植田大樹氏 web 授賞)、「数寄屋建材×高精細デジタル印刷壁紙」の日本写真印刷コミュニケーションズ(株)(代表として坂口裕志氏 web 授賞)が各々表彰されました。

最後に(株)三ツ星の北村氏より受賞者代表の挨拶があり、盛況のうちに表彰式が終了しました。

受賞作品の展示会は、当初 1 月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮して、延期することになりました。会場(GOOD DESIGN Marunouchi)は変更しないで、会期は2022年夏頃を予定しています。日程が確定したらご案内します。

お問合せ:info@vec.gr.jp (PVC Award 2021 事務局)

PVC Award:[公式サイト](#)

■ 随想

◇ エスワティニ王国旅行記（5）健康

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

日本と比べ、平均寿命がかなり短いエスワティニ王国。
確かに、お年寄りの姿はあまり見かけませんし、たまに見かけて年齢を聞くと私より若い人ばかりです。

アフリカ全般に言えることですが、人種的なものや、生活習慣、食事の影響もあるのでしょうが、男性も女性も日本と比べ年齢よりかなり老けて見えます。
それに比べ植民地時代から代々住んでおり、エスワティニ王国で生まれ育った白人の方は平均寿命も長く、外観も日本人がイメージしている年齢相応に見えます。

他のアフリカ諸国に比べ上水道の普及率が高くほとんどの地域で水道水が飲めるため、乳幼児の死亡率はかなり低くなっています。
また、こちらの医師の話では、手を洗う、目に異物が入ったら水道水ですぐに洗い流せるため眼性疾患の割合も低いとのことでした。

田舎に行くとまだかなりの距離水汲みに行っている人も居ます。汲んだ水は雨水など衛生面で問題のある水ではなく安心な水道水が供給されている共同給水所なので不衛生な水が原因の疾患などもかなり低く抑えられています。

但し、水道代を節約するため洗濯などは雨水、湧き水などを使う家庭も多いようです。

一部の湧き水は水道局の検査を受け安全と認められたら飲料水として使用してもいいことになっています。

私が滞在している場所もその一つですが冷たくて美味しい水です。

しかも、日本の水と同様、軟水なのでヨーロッパの硬水のように水回りにカルキ成分が析出し、白く粉が吹いたようになることもありません。

しかし、最近では農耕地が拡大し、水を多く使うようになったため、湧き水だけでは不足する可能性が出てきたので普通の上水道も混ぜて供給することを考えているとか。

医療システムは決して充実していません。

国土は狭いですが人口も少ないエスワティニ王国、都市部に纏まって生活をしていればいいですが、農耕地が多く、数家族が小さな集落を作り、全国に点在して生活をしていきます。

ある集落で「人が一人亡くなると、人口が 5%減る」と言われました。

一瞬何のことか分かりませんでした。その集落の人口は 20 人。確かに、1 人亡くなると人口が 5%減るわけです。

このように人口が分散しているため、病院（総合病院ではなく、クリニック）や薬局もある程度の大きさの街にしかありません。

医療水準も設備も日本のクリニックに及びませんから、病気にならないことが基本となります。



このため、エスワティニ王国の保健省では巡回検診車 (Mobile Healthcare Clinic) を全国に展開し健康相談や早期治療に当たっています。

もし、重病や重傷を負った場合は、最寄りの (と言っても、車で2時間近くかかる場所も沢山あります) クリニックで応急処置を行い、救急車が大きな農場で所有しているセスナ機で大都市にある総合病院に移送す

ることになります。

但し、総合病院と言っても、日本の総合病院のように設備が充実していないため、ある程度お金がある人や農場主など白人系の人や家族はセスナ機でそのまま設備が充実している南アフリカ共和国や旅客機でもっと遠い台湾の病院に飛んでいきます。

病院がこのような状況なのでもっと困るのが歯科。

大都市以外では全く見かけません。

幸い、虫歯になりにくい人が多いのか何人かの人に聞きましたが虫歯になったことがある人は1人しか居ませんでした。

虫歯になったことがある人曰く「治療に行くのにバスで片道3時間、往復6時間に治療時間を含めると1日かかる」。

このため、スーパーなどでも歯磨きに関するコーナーの品揃えは充実しています。

それと、平均寿命が短いため、老化による歯の欠損が始まる前に亡くなる方が多いせい、歯がなく物を噛むのに困っておられる方もほとんど見かけません。

医療で現在、最も大きな問題は輸血用血液の不足。

献血車が全国を回り、輸血用血液を集めていますが、国民の27.4%がHIVウイルスキャリアですからこの血液は輸血には使えず、せっかく献血をされても焼却処分されるだけです。

不足しているのは輸血用血液だけでなく、子どもに摂取するワクチンの購入費も同様です。

10人のうち7人が1日2ドル以下で生活しているエスワティニ王国の人に高価なワクチンを購入する余裕はありません。

このため、国民の一部には贅沢な暮らしをしているムスワティ3世国王に対し不満の声も出ているようです。

(続く)

今回は、（6）自然 です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <https://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp
